

# 令和6年度に管内で発生した 豚丹毒の大規模流行と当所の対応

鹿行家畜保健衛生所

土谷 結希

# 令和6年7月病性鑑定

A農場	
経営形態	一貫
母豚規模	34頭
症状	チアノーゼ、起立不能
解剖供試豚	母豚（死体）
診断名	豚丹毒（敗血症型）



母豚の起立不能



豚丹毒ワクチン：**肥育豚のみ**不活化ワクチンを接種

# A農場

ワクチン接種の不備

母豚のワクチン未接種

+

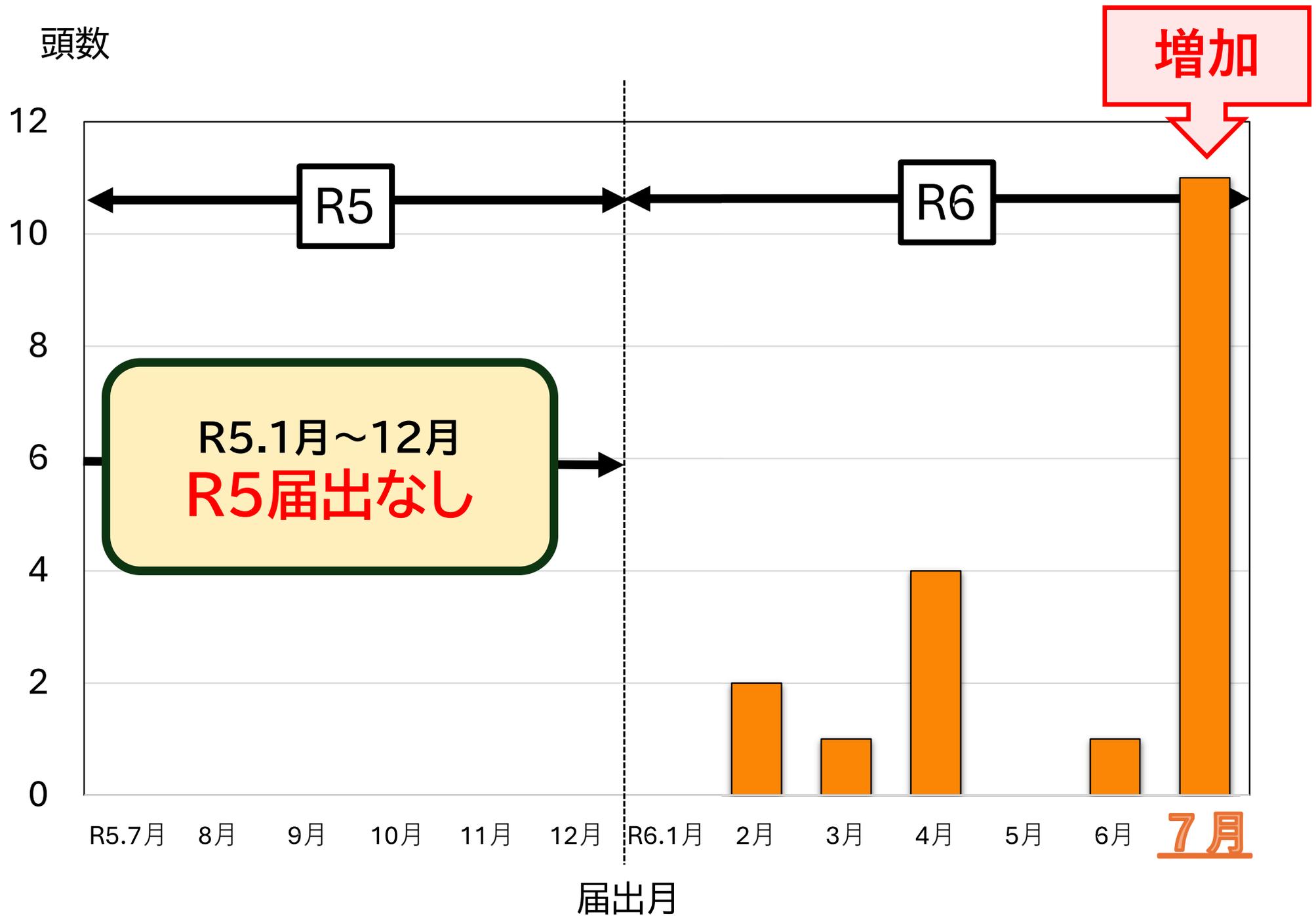
飼養衛生管理の不備(消毒の不徹底)

ストール舎で母豚の死亡が続発

⇒ 消毒未実施のストールに新たな母豚を入れた

⇒ 豚丹毒 発症

# 鹿行地域の豚丹毒届出頭数



# 当所の初動対応 8月

## ① リーフレットの作成

- ・発生状況
- ・豚丹毒の特徴
- ・衛生対策

## ② 全ての養豚場へ 一斉周知・注意喚起

## ③ 個別の衛生指導

令和6年8月16日

## 鹿行管内で豚丹毒が流行！

### 【発生の概要】

- 銚田市及び行方市の5農場で発生！（7月中旬～8月中旬）

豚丹毒はと畜場法でと殺及び解体禁止、全部廃棄の疾病で  
**経済的損失が大きい疾病**のため対策が重要！

### 豚丹毒菌の特徴

- 経口又は傷口から侵入
- 土壌などの環境中に広く分布
- 自然環境下での**生存期間が長い**
- 高温多湿な夏に発生しやすくなります。
- 敗血症型、尋麻疹型、心内膜炎型、関節炎型と症状が多彩

### 対策

- 菌を持ち込まない！  
➡ 豚舎ごとに**長ぐつ、作業着を替える**  
➡ 農場・豚舎出入口での**人及び車両の消毒**  
➡ 畜産関連施設の**入退場時に消毒を徹底**
- 予防する！  
➡ **豚舎消毒の徹底**（一般的な消毒薬で効果あり！）  
➡ **ワクチンの接種**（生・不活化ワクチンで発症を防げます）  
※抗菌薬・移行抗体の影響に注意しましょう



豚丹毒を侮るなかれ！！

各農場の対策を徹底し、発生を未然に防ぎましょう！



茨城県鹿行家畜保健衛生所 電話 0291-33-6131

（夜間・休日も対応！異常畜をみつけたら、すぐに通報！）

# 令和6年10月病性鑑定

## B農場

経営形態	一貫
母豚規模	200頭
症状	菱形疹、チアノーゼ
解剖供試豚	120日齢肥育豚（死体）
診断名	豚丹毒（敗血症型）



肥育豚の菱形疹



豚丹毒ワクチン：繁殖豚、  
肥育豚に不活化ワクチンを接種

# B農場

## ワクチン接種の不備

導入した繁殖候補豚のワクチンは未接種

+

## 飼養衛生管理の不備(豚舎毎の長靴交換の不徹底)

- ・6月に母豚3頭がチアノーゼを呈して死亡
- ・長靴交換せずに肥育舎へ出入り  
⇒肥育豚での発生につながった?

豚丹毒!?

+

## 効果のない抗生剤の投与

- ペニシリン系
- × フルオロキノロン系(2012年流行時は効果あり)

農場で使用

# 当所の追加対応 10月

- 👉 詳細なリーフレットを新たに作成、周知
- 👉 研修会で繰り返し情報提供、衛生指導

もう一度、農場の豚丹毒対策を見直しましょう!!!

## 【豚丹毒の予防は・・・】適切なワクチン接種を行いましょう!!

○ 豚丹毒予防にはワクチンが有効です。「生」と「不活化」があるので、特性を理解して選択しましょう。

種類	生ワクチン	不活化ワクチン
投与方法	肥育豚 約1-3カ月齢に接種。 (母豚の移行抗体から接種日齢を設定。)	約4週齢以降、3-5週間隔で2回接種。
	母豚 約6カ月間隔で補強ワクチン。	分娩3週間までに、2回接種
注意点	・生ワクチンは薬剤の影響を受けやすいので、接種前後の薬剤使用や飼料添加は控えましょう。 ・接種後は善感反応(接種部位の発赤)を確認、認められない場合は、再度、接種をしましょう。	・2回接種により、ブースター効果(抗体価の上昇)が得られ、良好な免疫が得られます。 ・1回接種では、本来の効果を得られません。

※農場発生の豚丹毒は、ワクチン未接種農場では被害が甚大です。また、不活化ワクチン1回接種のみも危険です!

## 【豚丹毒が発生した時・・・】早期発見と早期対策が肝心です!!

- 豚丹毒の治療には、一般的に「ペニシリン系」の抗菌剤が有効です。ただし、投与量が通常量とは異なるため、御注意下さい。
- 「敗血症型」の豚丹毒は、**急死による死亡数の増加が特徴**ですが、症状だけでは他の疾病と区別がつかないため、診断に際しては、病性鑑定を実施しましょう。
- 早期発見と適切な診断が、**効果的な治療と早期の終息**につながります!

## 【豚丹毒を出さないために・・・】豚丹毒を入れない! 拡げない!

○ 農場の豚丹毒対策について、再確認!!

Point I: 導入豚のワクチン接種は行っていますか? それとも、導入元で接種済ですか?

Point II: 農場での豚丹毒ワクチン、接種日齢・回数 は適切ですか?

Point III: 毎日の健康観察で、発疹や急死等、豚丹毒の兆候を見逃していませんか?

★異状発見時には、管理獣医師または家保に御連絡をお願いします。

養豚密集地域は、地域ぐるみの情報共有と取組みが大切です。  
引き続き、地域一丸となった衛生対策に御協力をお願いします!

茨城県鹿行家畜保健衛生所 ☎ 0291-33-6131

## 典型症状

## ワクチンの特徴

## 治療・対処法

### 【参考資料】

#### 豚丹毒の皮膚症状①

- 臀部に現れた菱形疹
- 全てがひし形ではない
- 淡紅色
- 発疹は隆起している



#### 豚丹毒の皮膚症状②

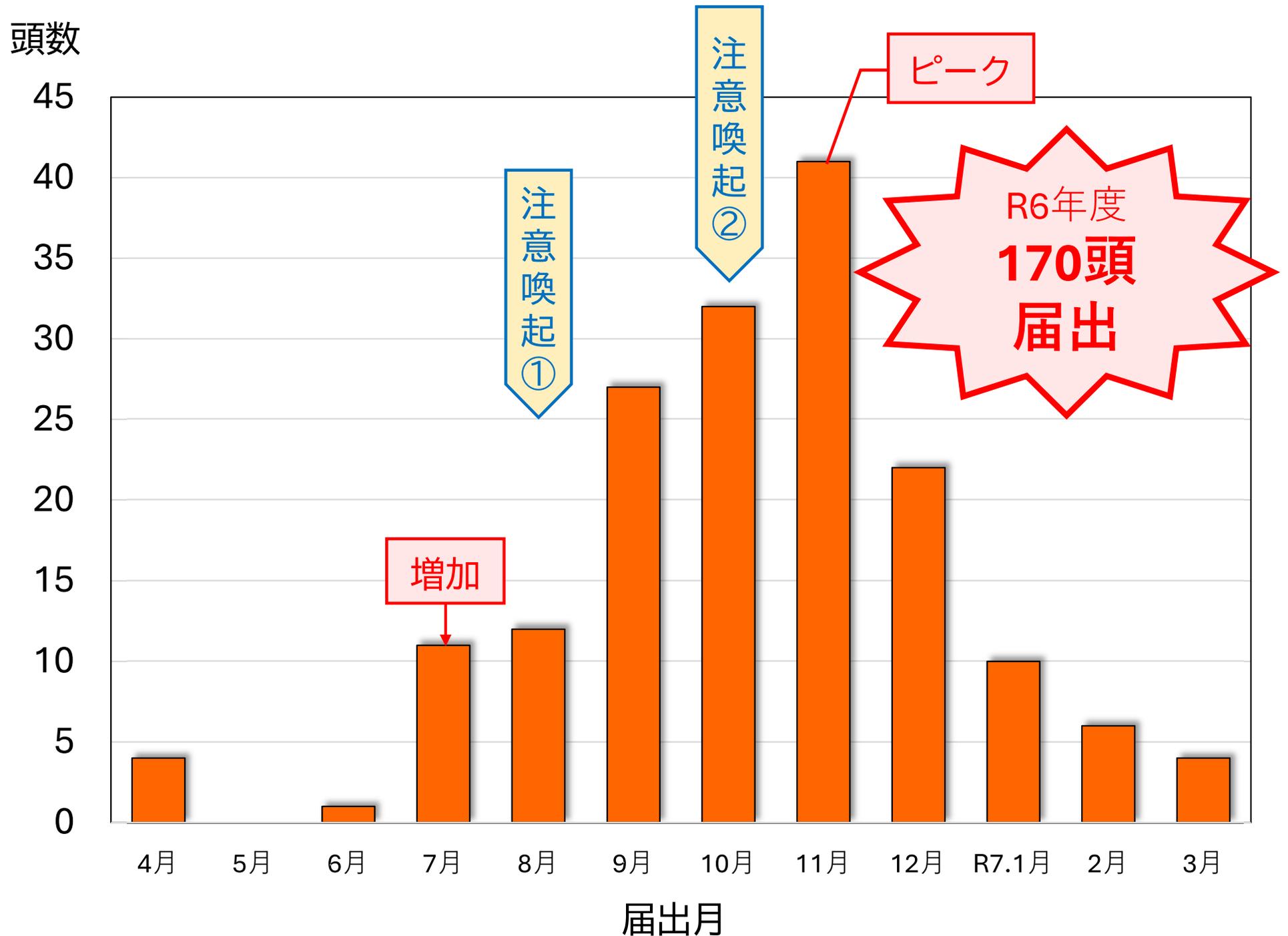
- 背部(側面)の発疹
- 皮膚の隆起が目立つ



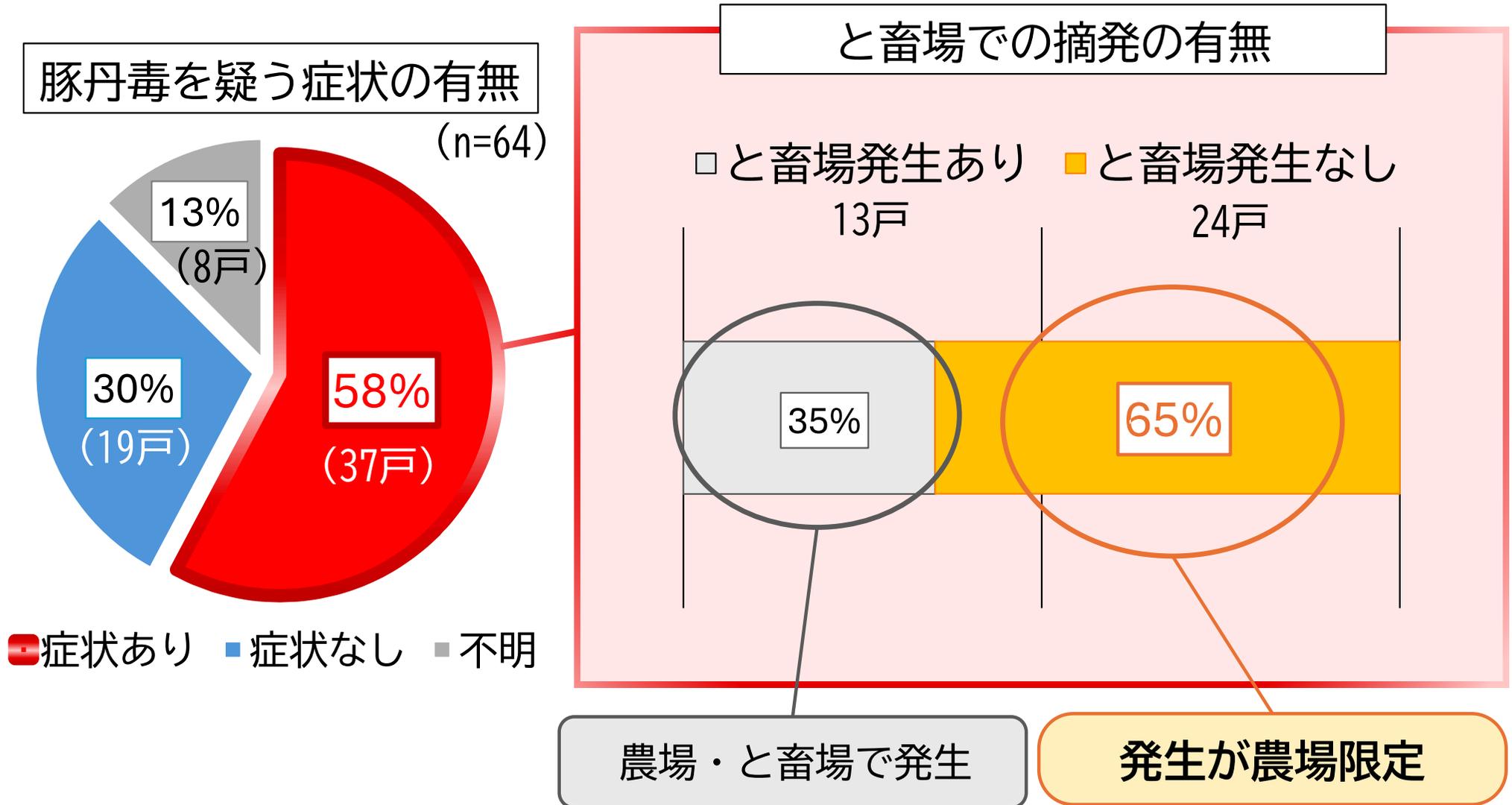
※ 症状が現れた体の部分によって、発疹の見え方は異なりますので御注意を!

茨城県鹿行家畜保健衛生所 ☎ 0291-33-6131

# R6年度 鹿行地域の豚丹毒届出頭数



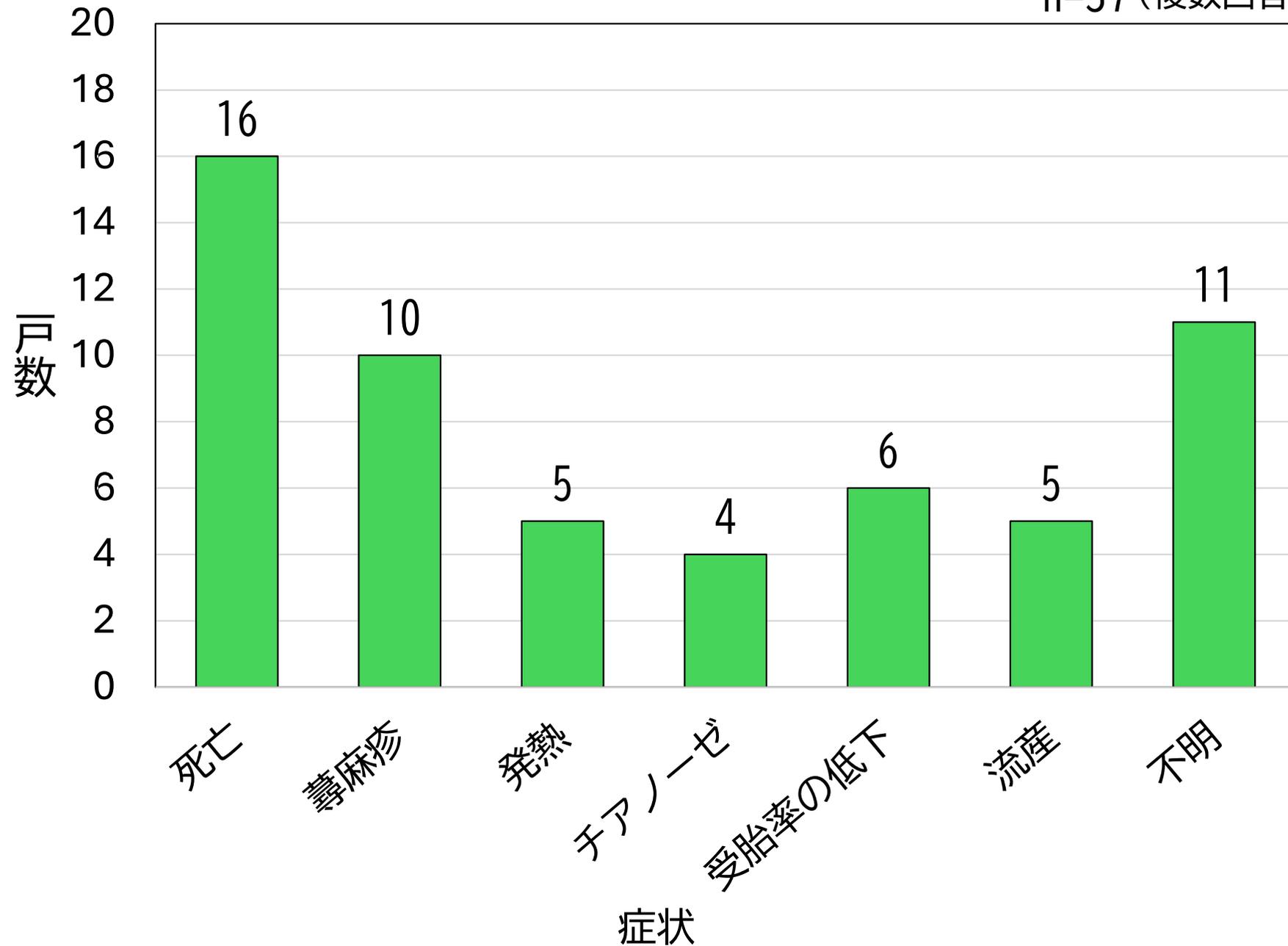
# 管内農場への聞き取り調査結果



届出数に現れない豚丹毒が多く存在

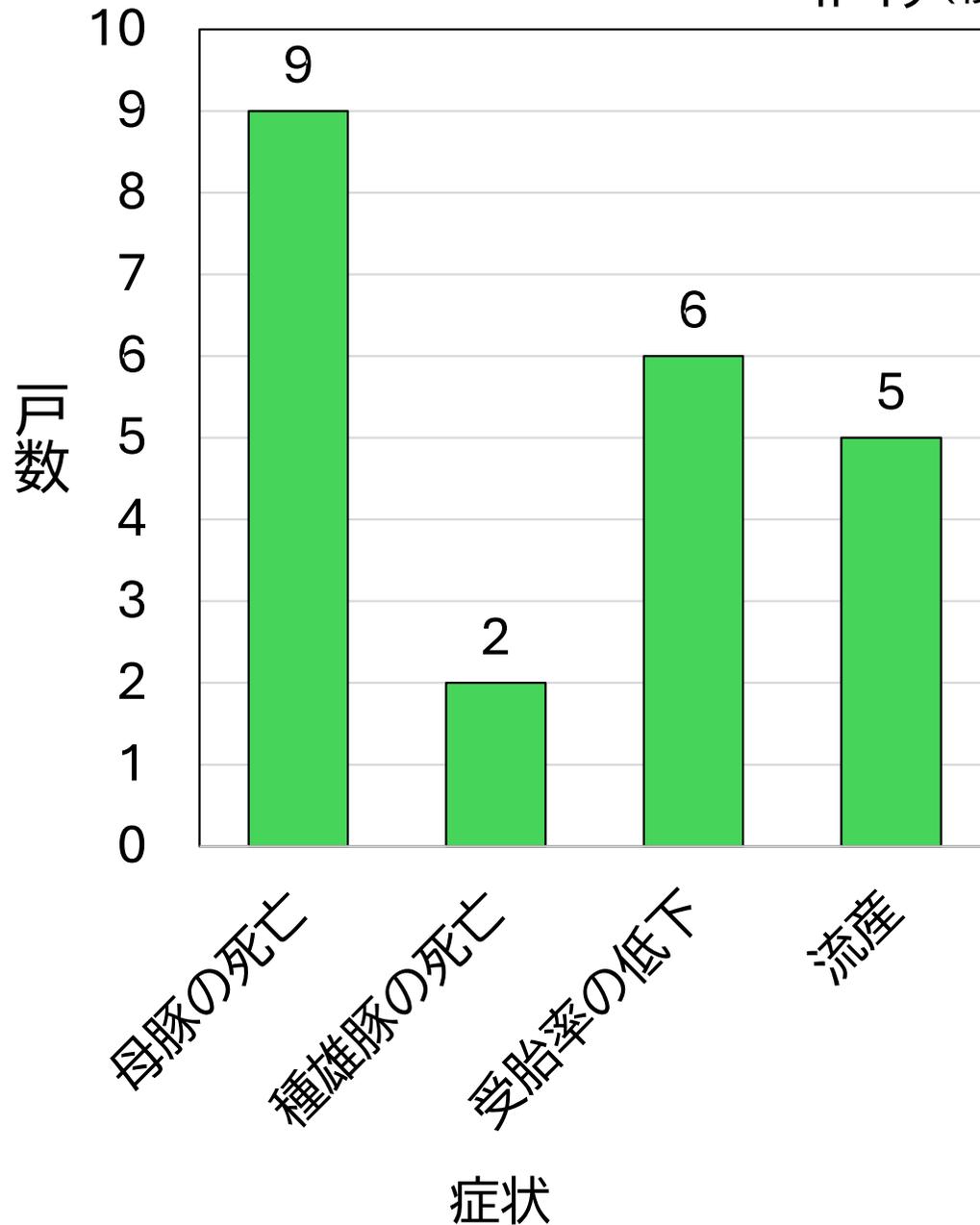
# 農場で見られた症状の種類(繁殖豚・肥育豚)

n=37 (複数回答有り)



# 農場で見られた症状の種類（繁殖豚）

n=19（複数回答有り）

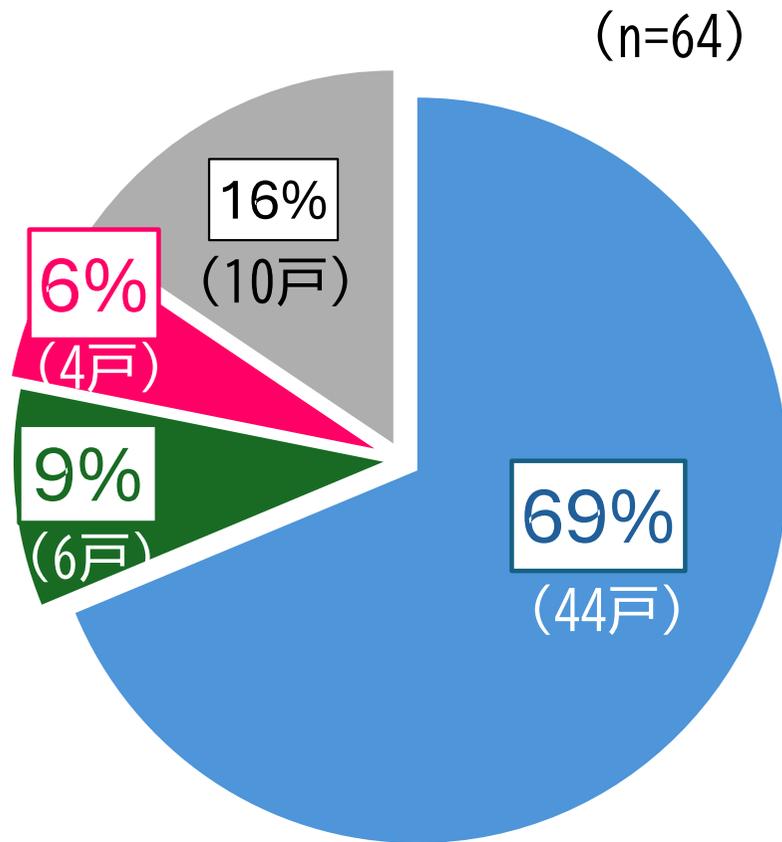


- 母豚・種雄豚の死亡
- 受胎率の低下
- 流産

→ 豚丹毒以外でも見られる症状

→ 発見が遅れ、対処の遅れにつながる

# 豚丹毒ワクチン接種状況



■ **概ね接種** **69%** (44戸)

→母豚・肥育豚に接種

接種漏れあり

- ・種雄豚、繁殖候補豚等の導入豚には未接種
- ・導入した肥育素豚に不活化ワクチン**1回のみ**

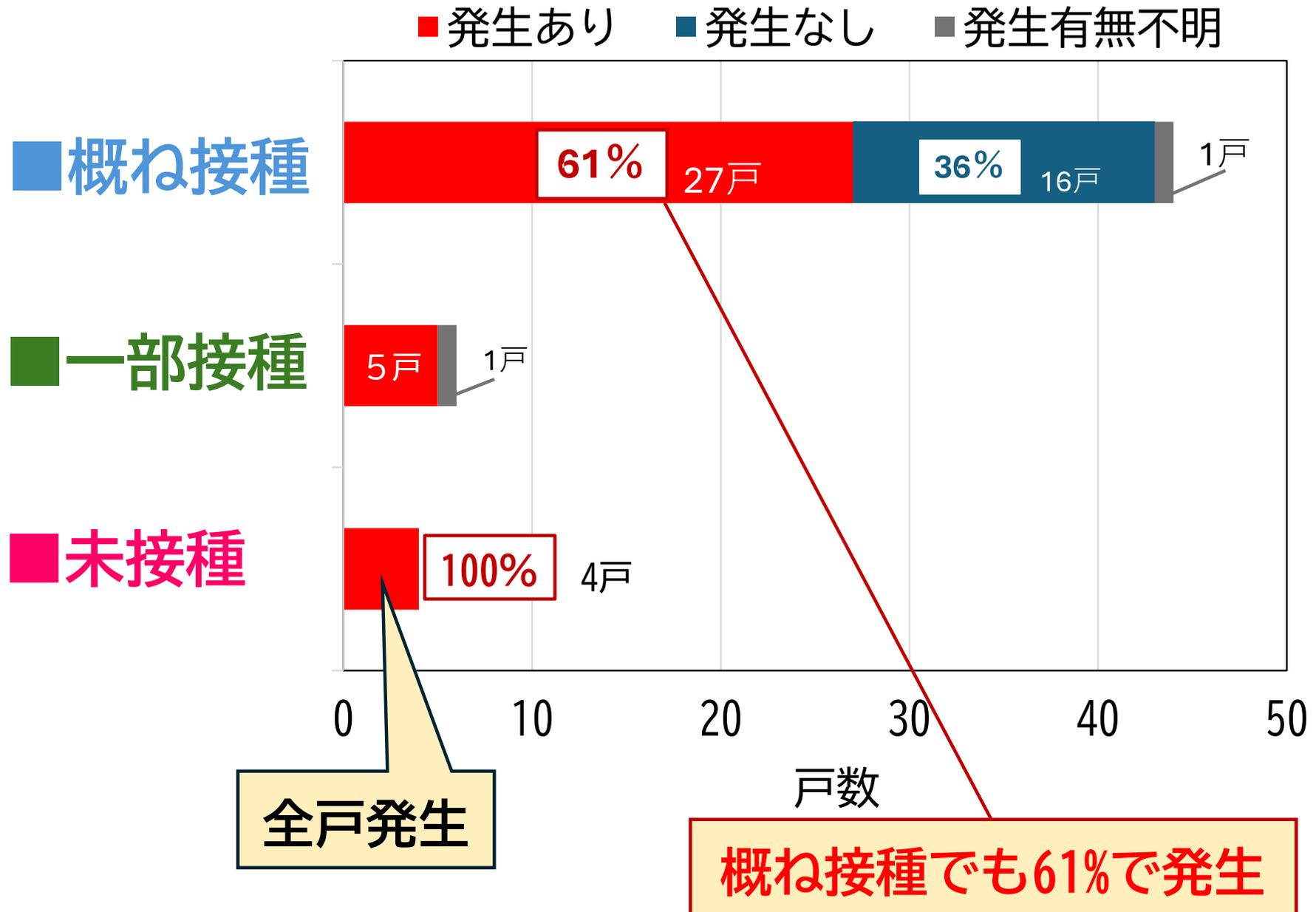
■ **飼養豚の一部に接種** **9%** (6戸)

→母豚 or 肥育豚に接種

■ **未接種** **6%** (4戸)

■ **不明** **16%** (10戸)

# ワクチン接種状況別の農場発生の有無



# 【考察】豚丹毒の大流行の要因

病性鑑定で判明

- 飼養衛生管理の不備
- ワクチン未接種豚の存在
- 効果のない抗生剤投与  
(従来株と異なり耐性獲得)

聞き取り調査で判明

- 水面下で豚丹毒発生
- ワクチン未接種豚の存在
- 典型以外の分かりづらい症状

複数の要因により農場内の菌量増加

# 豚丹毒を発生させない継続すべきポイント

- ✓ 的確な診断と早期周知⇒年度内に沈静化
- ✓ 本県の豚丹毒の流行は2004年、2012年（約10年周期）  
⇒継続した対策が重要

## 継続すべきポイント

- ・ 全頭に適切なワクチン接種
- ・ 飼養衛生管理の徹底
- ・ 有効な抗生剤を用いた適切な治療
- ・ 異状発見時の獣医師・家保への相談

引き続き指導  
を継続します

